

11月 トライやる・ウィークに思う

トライやる・ウィーク、1998年、貝原兵庫県知事の年頭挨拶の中で元旦に実施が発表されました。前年に起きた須磨の中学生による連続児童殺傷事件の反省から、中学生を学校の勉強と部活から解放し、自分の将来の夢に向かって職場体験に専念する1週間を与えるという目的でした。素晴らしいことであると思いつつも、5月に実施する地域もあり、事業所の確保に現場はかなり大変だったことを覚えています。

新宮中学校区では今も事業所が生徒の希望より多く、せっかくやってあげようと思われている事業所の方に申し訳ないほどです。有り難いことです。感謝いたします。他の校区では、確保にかなり苦労し、商工会がやって下さったり、本当に大変です。私も担当したとき、生徒に自分で見つけて頼みに行かせたこともあります。

始まった当初は田植えなど農作業を手伝わせるため春に実施する地域が多かったり、親が自分の職場に子どもを連れて行くなどのことがあったと覚えています。今年で22年になります。36歳以下で兵庫県の公立中学校出身の人は全員体験していることになります。もう、保護者の中にもトライやる・ウィークを経験した人がおられるかもしれません。

兵庫県が独自に始めました。全国どの都道府県でも行っているわけではありません。他の府県が兵庫から学び、全国に広がったようです。文部科学省の統計によれば、全国で職場体験を実施しているのは約90%ですが、そのうち5日間体験があるのは9%つまり、100人のうち8人くらいしか体験できないことを兵庫県の公立中学生は体験できるということになります。

5日間学校を離れて職場体験を行います。修学旅行は2泊3日ですので、それより長い期間になります。間違いなく、中学校生活で最も大きな思い出の一つになります。また、公立高校の推薦入試の面接で、トライやる・ウィークで何を学びましたか？という質問をされる学校もあります。高校も重視する大きな行事です。是非素晴らしい体験にしてあげたいものです。

さて、トライやる・ウィークの正式名称は「地域に学ぶ、トライやるウィーク」です。学校を離れ、地域の指導ボランティアの方にいろんなことを教えていただきます。みなさんは、小学校6年間、そして中学校2年まで、地域の方々に見守られて安全に登下校し、また様々な行事を行ってきました。今回、トライやる・ウィークでいろんなことを教えていただいたこと、地域の方々への感謝の気持ちを生涯忘れずに、大きくなってからは是非、地域に貢献できる人になってほしいと願います。

特別な1週間になります。ご家庭でのご協力をお願いします。子供たちにとって、このトライやるウィークが、意義あるものに、そして子どもたちの大きな成長につながりますように、

まずは体調管理、そしてノート指導、作文、声かけ等、2年生からさまざまなことをお願いすると思いますがどうぞよろしく願いいたします。

校長 堀 富雄

